

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 人間関係学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間関係学科では、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、「多角的な視点」から「実証的」に分析し、広く「発信する」能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

期待される卒業生像は、学際的教育によって培われた柔軟な視点と実証研究を通して学んだ論理的な分析能力を活かしながら、幅広い分野で自らの目的・使命を自覚しつつ、自らの意見を正確に発信し行動できる、他者と共感的にかかわり、協働できる人間です。

社会事象を観察し、面接によって人々の意識を探り、質問紙調査のデータを統計的に解析する作業、すなわち「社会調査」の視点と手法を身につけていることも期待されています。

企業や行政機関、教育機関などで、多角的な視点から社会を客観的に分析し、リーダーシップを発揮する人材になってほしいと思います。

2. 人間関係学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間関係学科では、人格心理学、社会心理学、社会学、文化人類学、比較文化学といった学問の視点を通して、複雑で多様化した社会と人間のあり方を考えます。学問は日常生活から切り離されたものではなく、身近なところに研究の糸口がたくさんあります。

本学科の研究では、文献を読んでまとめるだけでなく、フィールドに出て人や社会と積極的に関わること、社会の現象や問題に関心を持つこと、それを客観的に読み解く力が求められます。

常に多方面にアンテナを張り、現代の諸問題を問い直す目を持つこと、客観的かつ多角的に考察する力を習得すること、フィールドに出て調査を行うバイタリティとスキルを培うこと、そのような研究活動を通じて、知を磨き、社会を見通す力を身につけ、実行力を養うことを目的として、カリキュラムを編成しています。

2年次には本学科の基幹分野である人格心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・比較文化学の5つの学問領域を必修として履修し、社会や人間に対する複眼的なものの見方を習得します。また、同時に実証的な分析の手法として、社会調査に関する初歩的な知識を学びます。

3年次には上記の5領域のうちの一つの領域を選び、演習を中心に専門性を身に付け、同時に、社会調査実習等を通じて社会調査の技法を実践的に学習します。

4年次には実証的手法による研究を進め、専門性、視点、方法論の総まとめを行い、メンターの指導を受けながら卒業論文を執筆します。その成果について全員がポスター形式による発表を行い、自らの学習の評価点検を行います。

3. 人間関係学科の進学生・編入学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間関係学科では、自らの問題意識にもとづいて学問的な探求を行うこと、学際的教育によって柔軟な視点を養うこと、実証研究を通して論理的な分析能力を身につけること、自らの意見を正確に発信し行動できるようになることをめざす学生を受け入れます。社会事象を社会調査の視点と方法を用いて明らかにしたいと考えている学生に進学してほしいと考えています。

編入学生についても、上記のアドミッション・ポリシーは同様に考えています。

人間関係学科での学びについては、オープンキャンパスや大学ウェブサイト、学科独自のHPやFacebook等で紹介しています。また、1年生むけに「人間関係入門」を開講しています。

2017年3月31日更新